

# あじえんだ

## 第2号



◀ 求愛のディスプレイをするバン (写真提供/中川雄三)



▲ 巣穴から顔を見せたホンDIGツネの子供 (写真提供/中川雄三)

### 《もくじ》

- キーワード随想…………… 2
- 桂川・相模川を美しくするために…………… 7  
(桂川・相模川流域シンポジウム)
- 流域ウォッチング①…………… 8
- クリーンキャンペーンを実施しました…10
- 環境保全行動について  
具体的に話合っています……………11
- 市民・事業者・行政から……………12
- 伝説 龍宮淵 (りゅうぐうぶち) ……15
- お知らせ……………16

### 桂川・相模川流域協議会

## 《キーワード随想》

# アジェンダ21 桂川・相模川

市民、事業者、行政と立場はそれぞれ異なっても、「川はいつも清くゆたかに流れてほしい」思いは1つです。本号では「共生」「行動」「自浄作用」「治水」「未来」「多自然型川づくり」の6つのキーワードから3つ以上を使って、6名の方々に水環境の保全やアジェンダ21 桂川・相模川への取組みなどへの思いを綴っていただきました。

※掲載はお名前の五十音順によりました。

## 「新しい川づくり」 に期待して

熊澤峻子

河川でのフィールドを持って実践活動していない立場で川の話をするのははばかりが、子供の頃の体験を通して、またワークショップ等に参加しての日頃感じていることを話してみたい。

最近、河川事業は治水・利水を中心に生態系を考慮してこなかった反省に立って、多様な生物の存在する多自然型川づくりが行われてきている。子供の頃そんな工法は聞かなかったが、田植えが終わる頃、蛙の鳴き声に併せるかの様にホタルが田圃の上を乱舞している姿は田舎でよく見られた光景であった。

ところが市民の森を初め、小川アメニティ、せせらぎ緑道、親水公園等の水源や水辺を中心に作られた立派な施設に出会っても、人間の利便的な快適さを優先するあまり、肝心の水生生物の姿が一向に見られないのが気になっている。一度人の手が加わると、自然の自浄作用

がたとえ機能していても、かつての多様な生物がそうやすやすと簡単に戻れるものでないことを自然は教えているのではないだろうか。

話は変わるが、明日香村の里人は棚田の灌漑用水路を三面張りのコンクリートにした。「自然の生態系を乱している」と批判されたが、若者が少ない農家にとって土を固めた水路がなくなってモグラとの格闘の苦勞がないだけ助かったと言う。「人間様が生きていく方が大事だ」と、機械耕作やビニールハウス等の使用禁止の歴史的風土特別保存地区で生活する大変さを訴えていた。その一方で人手不足の解消にと応募で、都会から家族を呼び、土地を開放し村人がオーナーとなって棚田ルネッサンスで村の活性化を図っている。このしたたかさを知ったとき、いささかそのたくましさに感動さえ覚えたりしたものである。

いま、人と自然を共存させてきた里山の存在価値が再評価されている。15~20年毎のサイクルで里人が雑木林を自分達の生活に取り込んで活用した知恵を今こそ見習うべきときと思う。

河川の理想像「国民の生命と財産を守り育て、

「豊かな生物と風土を育む」に向け、また河川環境の保全と創造の基本「生物の多様な棲息・生育環境の確保、健全な水循環系の確保、河川と地域の関係の再構築」に向け、桂川・相模川流域協議会が市民・行政・企業のパートナーシップで出発したアジェンダ21の「新しい川づくり」を、これから大いに期待していきたい。

(泉区民会議文化教育分科会事務局長)



① 木ノ実の散策路づくり (小出川に親しむ会)

## アジェンダ21桂川・相模川を実行しよう

桑 垣 美和子

川は豊かな森がつくる養分を運び、土砂を運搬し堆積させます。時には水をあふれさせ、川底に貯まった肥沃な土壌を周辺に還元しました。河口の干潟では川の汚れを最後に浄化して注ぎ、海は豊かな生物を育んできました。

川の中の微生物は汚れを栄養として吸収します。生き物は食う食われるという食物連鎖を通じて共生し、有機物の汚れは例えばカエル、ホタル、魚などに姿を変え、川から運び出されます。川が流れるときれいになるという自浄作用は、こうした生き物たちの営みの結果でもありました。

微生物が汚れを分解するとき使われる多量の酸素は、泡立っている川の瀬で補給され、淵には魚が棲みます。植物が茂る蛇行した川は、水の滞留時間が長く、いっそうきれいになります。

最近、生物たちは徐々に汚染になれ、市街地の汚れた川でもカワセミが魚を取っています。こうした生物の変化を警鐘と受けとめ、自浄作

用を衰えさせ、遺伝子などに影響を与える合成化学物質の使用を極力抑制する必要があります。

ところで茅ヶ崎市を流れる相模川の支流小出川は、小出川に親しむ会の活動により、改修計画が見直されコンクリート護岸から**多自然型の川づくり**に変更されて土手になりました。生態的には周辺の水田、緑地、源流の谷戸など遊水機能を持つ土地を一体として治水する面的な保全が望まれます。

一昨年、様々な動きと共に川が持つ循環の機能、環境に視点をあわせて河川法が改正されたことは評価されます。しかし流域の環境保全は川づくりだけで解決される問題ではなく、アジェンダ21桂川・相模川では、水質・水量、ゴミ、森づくり、生物との共生、公共事業、市民参加の6つを課題としています。

流域協議会では持続可能な循環型社会をめざし、これらの課題について行動計画をたてるため専門部会で話し合っています。水量の資料では、桂川と相模川の水収支が分かりやすい図表で市民に公開されました。情報の共有、三者の対等性からたいへん評価できることです。

流域協議会の役割に大いに期待して力を注い

できたのは、これまでの活動の延長として、市民が提案し、**行動**することが新しい社会をつくりだすという認識からでした。

同じ流域でも上流と下流では、利害が異なる場合もあります。アジェンダ21による環境保全を中心に据え、一次産業を活性化した経済交流など、お互いが活かせるシステムをつくること、あらゆる生物と共に生きる**未来**のため必要だと思います。

(小出川に親しむ会／茅ヶ崎市生活排水対策推進会議)

## 限りある自然環境の保全に向けて

高橋利夫

市域西側の市境を流れる相模川は、下流域に位置する茅ヶ崎市にとって、その規模、自然度から見て重要な水辺環境となっており、市内に流れる小出川、駒寄川、千ノ川の3河川の最終の合流川となっています。

本市は、南は相模湾に面し、北は緑豊かな、なだらかな丘陵地が広がり、市域全体としては、海岸、川、林、農地等の多様な自然環境がある恵まれた地域となっております。

この身近な恵まれた自然は、私たちの必要な食糧や清浄な空気、水を与えてくれるとともに、



② 相模川の支川・小出川 (神奈川県茅ヶ崎市)

私たちの心に安らぎを与えてくれているのですが、人口の集中による都市化が進み減少傾向にあり、また、自動車の排気ガスなどによる大気汚染や生活雑排水による水質汚濁や河川のコンクリート護岸整備などで、河川の**自浄作用**の低下をもたらす等、環境に大きな影響を与えています。自然と人が**共生**し、未来まで継続してゆく上で、自然環境の保全が必要であり、市民、事業者、行政等の相互理解と協力による新たな取り組みが必要となってきました。

そこで、茅ヶ崎市では市民等の参加型の取り組みが図られ、水環境問題では市民で構成する「茅ヶ崎市生活排水対策推進会議」を設置し、対策の検討や実態調査を通じて広く市民に環境問題を考えていただいたり、総合的な環境対策を推進するために「環境基本条例」や「環境基本計画」をつくりました。今後、計画に沿った具体的な施策を展開していくのですが、「アジェンダ21桂川・相模川」を推進する桂川・相模川流域協議会の**行動**をも視野に入れた協働の展開をどのように取り組んで行くか、協議会の皆様と共に研究、検討していきたいと考えております。

なお、市民、事業者、行政が一体となった取り組みは多くの時間を要しますが、この検討が大切であり、**未来**の人々へよりよい環境を引き継いでゆく上で必要と感じています。

(茅ヶ崎市環境部環境保全課)

## 地方分権とアジェンダ21

田中 充

いま、日本の行政システムに「地方分権」という大波が押し寄せてきています。

一般に、地方分権とは、国が持っている権限を自治体に委譲し、国と自治体が対等・協力の関係になるというものです。これは役所同士の

権限争いと目が向きがちですが、その本質は真の意味の「地方自治」を実現することであり、自治力の向上です。したがって、地方分権を推進するためには、自治体に権限の委譲を進め、自治体が自らの責任で政策展開できる分野を拡大することは勿論ですが、同時に、住民の意思が地域社会に係わる政策の立案・決定に反映されることが決定的に重要となります。これは、明治以来の行政のあり方を根本から変える契機となり、行政と市民・事業者の新しい**未来**の関係をつくりだすことになると期待されます。

さて、行政と市民と事業者がパートナーシップを結び、協働の立場で参加している「流域協議会」と「アジェンダ21桂川・相模川」。これは、地方分権の理念を先取りした社会組織であり、流域社会の新しい意思決定システムを内包するものと理解しています。

現在、流域協議会の専門部会では、アジェンダを具体的に進めるため、行政と市民、事業者の間で、水質・水量、ゴミ問題について真摯な議論が始められています。流域に**共生**する各主体が、自らの責務と役割を確認しながら、三者の合意となる望ましい将来像と行動指針づくりを行うことが当面の目標です。

専門部会の議論が始まって半年余。例えば、桂川・相模川の全川にわたる流況と水収支の把握、水質に関する現状など斬新な分析データをもとに、内実ある議論が積み上げられていま

す。そこでは、できるだけ早急に行動指針を作成し、行動を展開したいという思いの一方で、じっくり意見を交換し三者の合意形成を重視すべきという考えもあります。

いずれにしても、アジェンダとは自ら提案し、自ら**行動**するという地域社会の合意です。当事者となる市民はもとより、行政や事業者の積極的で主体的な行動が不可欠です。

ぜひ、桂川・相模川に関心を持つ多くの方の参加を期待しています。

(環境自治体アドバイザー／川崎市環境局  
環境企画室／川崎看護大学非常勤講師)

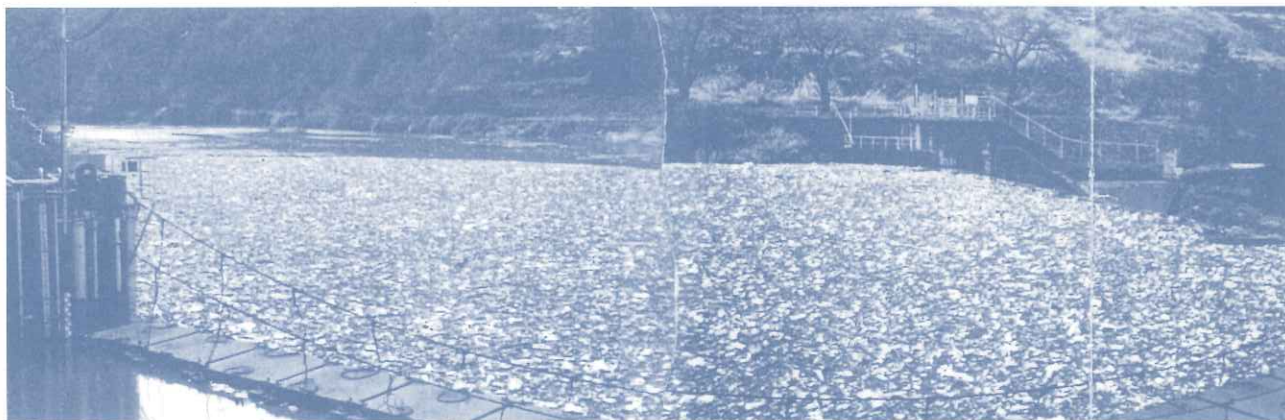
## 環境への取り組み

松井信夫

電力会社にとっての桂川は、富士山の豊富な水源と年間を通して安定した水量が確保でき、水力発電に非常に恵まれた河川です。

明治40年より発電を開始した、大月市にある駒橋発電所は我が国における「長距離高圧送電」の草分け的存在で、東京の早稲田まで送電した歴史的発電所であり、運転を開始してから90年以上が経過しています。

東京電力では、地球温暖化防止のため二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の削減にむけて、水力、原子力発電をバランスよく組み合わせ(電源のベスト



③ 発電用取水口にたまったゴミ (川茂発電所)

ミックスと呼んでいます)、CO<sub>2</sub>の排出の抑制に努め、省エネルギーへの積極的な行動を推進しています。

水力発電所を良好な状態で運転するためにはきれいな水が必要となります。しかし、近年の生活・文化の向上により、河川の汚濁が進んだため、河川にあるゴミをそのままにしておきますと、発電所の取水口に流れ着き、水路内に流入して水車の故障の原因となります。そのため、ゴミの流入防止装置を設置し、ゴミの回収に努めています。

当社の桂川水系発電所におけるゴミ処理の実態は、年間約2,750 m<sup>3</sup>にのぼり、2トントラックで1,100台分に相当します。

また、桂川においてはゴミ全体の60%を生活廃棄物が占めている状況です。

これからますます環境に対して真剣に考えなければ、河川と共生して、きれいな水を未来に残すことが出来ません。東京電力も、地球レベルの環境問題に取り組み、また、地域の環境保全にも十分に力を注いでいきたいと考えております。

(東京電力株式会社駒橋工務所土木グループ)

## 地域のみなさんへ

### 八代 哲之

こんにちは、都留市です。

当市も桂川・相模川流域協議会に参加しています。年間を通しての主な活動内容は河川清掃になります。

市内の桂川を見ると、ゴミが沢山流れているのが見受けられます。空き缶、空き瓶、発泡スチロール、家庭用ガスボンベ…よくこれだけのものが流れるなど、逆に感心してしまいます。

そこで、以前から行っていた河川清掃を「桂川・相模川流域協議会」の活動と位置づけ、9



④ 水生生物調査を行いました

月末の日曜日に地元自治会、ライオンズクラブ、青年会議所、商店連合会、建設業協会、漁業組合に協力をお願いし、河川清掃、水質パケットテスト、水生生物調査を行い、桂川の現状を把握をしてもらっています。残念ながら、今年度は雨の影響で水位が上がったため水質パケットテストは中止となりましたが、前年度調査では水質は良好であるとの結果がでていました。ごみはプラスチック類、空き缶、空き瓶を中心に2トン車約1台分拾いました。ほとんどが家庭生活から排出されるものばかりです。

流域住民の「自分の前からごみが消えればいい。」という意識が、安直に目の前の水路・小川にごみを流しているのではないのでしょうか。たしかに、目の前からごみが消えてきれいになったように錯覚しますが、そのしわ寄せは必ずどこかにくるものです。

ごみは川の自浄作用では消えません。流域住民のごみを流さない行動が桂川を美しく守ることにつながります。未来へ清く美しい桂川を引き継ぐため、住民の方々へお願いすると同時に、これからも活動を続けていきたいと考えます。

(都留市地域振興課環境保全室)

# 桂川・相模川を美しくするために

## 盛況裡にシンポジウム開かれる

＝ 3月7日けやき会館（相模原市）で＝

春とは言えど寒の戻りの肌寒い3月7日の日曜日、最上流からのバスは7時に富士吉田合同庁舎前を発ちました。

流域協議会が発足して一年を経た今日、桂川・相模川流域シンポジウムが開催されるのです。

この間、市民・事業者・行政のそれぞれが、川の保全に向けて停滞することなく熱心に討議が続けられてきたことに相違はありませんでした。課題は三者で共有し合意形成の実現に行きつ戻りつ進展し、協議会ならではの特色が発揮されてきました。こんな中、専門部会が設置され、尚一層のきめ細かさが加わって参りました。「桂川・相模川を美しくするために～流域のゴミ問題」のテーマに、上流から下流までのたくさんの人がシンポジウムに関心を寄せてくださいました。分科会は専門部会担当幹事の小宮さんから経過報告を受け、不法投棄・廃棄物・水質水量問題などへの取り組みが理解できたのではないのでしょうか。基本理念を市民部会で作り上げ提案したことも報告されましたが、多くの人々に浸透させていけたらと思います。

シンポジウムを祝して、山梨・神奈川両県知事よりメッセージが届きましたことに、参加者一同胸を熱くしたのではないのでしょうか。

基調講演には鈴木嘉彦山梨大学教授による「循環型社会から考えるごみ問題」をテーマに講演が繰り広げられ、身近な問題でありながら解決に結びつかない一面もあることや、現代社会の物質の大量な氾濫、消費、この要因が引き起こす影響、結果的に自然環境への負荷を説かれました。残されたゴミは誰の責任でしょうか。これからの消費生活で考慮しなければならないのは循環型社会へと切り替える転換期は今であることを強調され、尚、

環境教育の大切さも話されました。

引き続きパネルディスカッションにおいては、田中充環境自治体アドバイザーのコーディネートにより、流域で保全活動を実践している七団体の代表者が事例発表をしてくださりました。ダムや河川の管理をしている行政側、地道に保全活動を続け大きな成果を上げている市民グループ等々、その他空き缶を回収し、その収益金を発展途上国の学校建設に贈っている大月市立梁川中学校生徒会の皆さんには大きな拍手が起きました。それぞれの活動には大変な



⑤ 200余名の参加者が熱心に耳を傾けた

ご苦労がうかがえ敬意を表したいと思います。フロアー討議に見られたやりとりにもきれいな環境にしようという熱意がみなぎり胸の内を率直に出し合った素晴らしいシンポジウムだったと思います。鈴木先生の提案する『リデュース（減量）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化）』そして市民サイドでは「水筒を持って歩こう」を宣言文に加え、「桂川・相模川流域を美しくするための行動宣言」が参加者一同の決意によって採択されました。企画、立案、実践が皆さんの協力によって成功したシンポジウムだったと思います。

（事業担当幹事 加々美 清子）

# かえがえのない野の花たち

絵／松本千鶴



ミツバツツジ

葉が枝先に3枚ずつ輪生状につくところから名がついた。花期は3～4月で、葉っぱに先立ち紫色の花をつける。若葉に腺毛があって粘るのは、毛が汚れるのをいやがるノウサギなどから花や新芽を守るための戦略で、葉が成長すると毛は抜け落ちて粘らなくなる。

(注) 図中の①から⑨は、本号掲載の写真の撮影場所です。

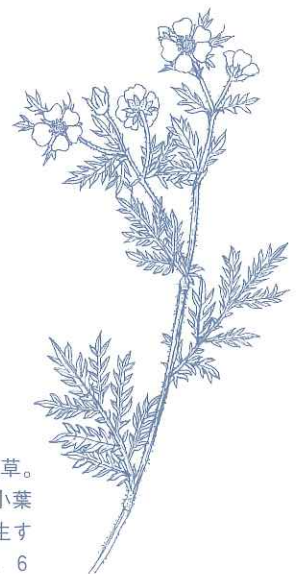


サンショウバラ

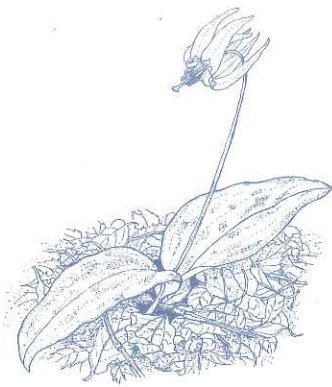
葉がサンショウを思わせるところから名づけられたバラ科の落葉低木。花は清そな淡紅色で4～6cm程度。富士・箱根地域にだけ見られハコネサンショウバラともいう。三ッ峠付近に比較的多く見られる。花期は5～6月

カワラサイコ

河原の砂地に生えるバラ科の多年草。高さ30～80cm、葉は羽状で15～29小葉があり、葉の裏面には白い毛が密生する。花は黄色で1～1.5cmほど、6月～8月に茎の上部に多数咲く。

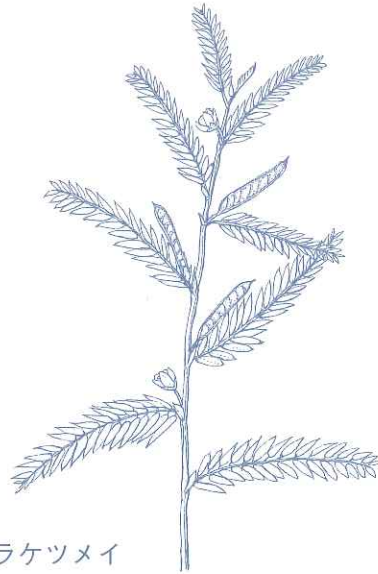






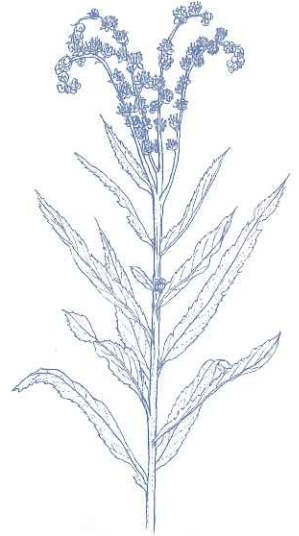
カタクリ

山野のやや湿ったところに群生する春を実感させるユリ科の多年草。3月～4月ころ紅のかかった紫色の花を下向きに開く。地下の鱗葉（ユリ根）から良質のデンプンがとれるが、市販の「片栗粉」はすべてジャガイモから取ったもの。



カワラケツメイ

河原や道ばたによく見られる高さ30～80cmのマメ科の1年草。夏から秋にかけて黄色い小花をつける。複葉の形はネムやオジギソウに似ている。古くからお茶代わりに使われ、マメチャ、ネムチャの別名がある。



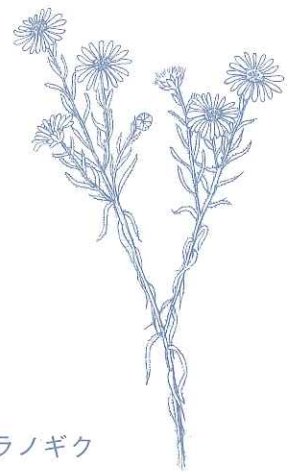
タコノアシ

湿地に生えるユキノシタ科の多年草。高さ30～80cmの茎の上部に、枝分れた数本の花序がつき、小花がー列に並ぶ。秋が深まると全体が赤身を増し、実が花序につくさまはタコの足の吸盤を思わせる。つぼみの時はカールして、実を結ぶころはまっすぐになる。



カワラヨモギ

河原や海岸など砂地に生えるキク科の多年草。花のつかない茎は短く、先端にロゼット状に葉をつける。この葉には毛が密生して白っぽい。花のつく茎は1m近くになり葉は普通無毛。花期は9月から10月。



カワラノギク

関東から静岡県東部の河原にしか生えないキク科の多年草で河川改修の最大被害者の一人。茎は上部でよく枝分れし、高さは50～70cm。4cmほどの白～薄紫色の頭花をつける。花の姿は野性的だが環境変化にはひとたまりもない。

# クリーンキャンペーン を実施しました

1998年8月から12月までの間、流域各地で桂川・相模川クリーンキャンペーンを実施しましたので、概要を報告いたします。

## 1 クリーンキャンペーンの目的

桂川・相模川クリーンキャンペーン'98は、私たちが策定したアジェンダに定められている「散乱ごみ・不法投棄のない地域づくり」と、「市民、事業者、行政が連携した取り組み」を進めることを目的として実施しました。

## 2 実施内容

### (1) 情報の収集と提供

クリーンキャンペーン期間（8月から12月）中に流域各地で行われるごみ拾いを中心にした環境保全活動の情報を収集、整理し、県広報紙やチラシなどを活用し、広く情報提供（周知）を行いました。

### (2) 清掃活動に対する支援

拾い集めたごみの処分の方法、簡易水質検査や水生生物調査の実施方法などに関する相談を受けたり、現地への講師の派遣などを行いました。また、ごみ袋や軍手、簡易水質検査キット（パックテスト）など、必要な資材

についても可能な範囲で提供しました。

## 3 実施結果

実施結果は、下表のとおりでした。

## 4 成果

参加者の皆さんのご努力により、散乱していたごみは相当減り、参加者には、環境保全の重要性について、認識を深めていただけたと考えています。

このように、協議会活動のPRと環境保全活動への参加の機会を提供できたことは、大きな成果と考えます。

## 5 今後の取組みについての検討

クリーンキャンペーン報告によると、不法投棄が多い（明見湖周辺＜富士吉田市＞）、空き缶が多い（朝日川）、バーベキューの跡が目立つ（中津川）、小型のペットボトルが散乱していた（小出川）、タバコのフィルターが多い（相模川下流＜平塚市＞）などの状況が見受けられました。

今後は、ゴミを捨てるだけでなく、ゴミを捨てないようにする運動の展開、河川敷の利用者への意識啓発や製造業者等と一体となった取組みの推進など、協議会として新たな取組み方法について検討していく必要があると考えます。

（事業担当幹事 神奈川県環境部水質保全課）

桂川・相模川クリーンキャンペーン'98実施会場一覧（21カ所、11,029人参加）

No.	県名	実施会場	実施日	主催団体	ゴミ 清掃	水質 調査	水質 調査	参加 人員
1	神奈川	中津川八菅橋上流右岸	8月14日	こどもエコクラブちきゅうクラブ	○	○	○	4
2	神奈川	千ノ川、小出川、駒寄川	8月22日～23日	茅ヶ崎市生活排水対策推進会議	○	○	—	120
3	山梨	山中湖畔	9月3日～11月5日 (延べ5日)	観光地をきれいにする会	○	—	—	6500
4	山梨	桂川大輪橋下	9月5日	桂川をきれいにする会	○	○	—	50
5	神奈川	相模川座架依橋上下流2km	9月6日	座間市	○	○	○	1636
6	神奈川	小出川浜園橋～新鶴嶺橋	9月6日	小出川に親しむ会	○	○	—	18
7	神奈川	相模川三川合流地点	9月26日～27日	相模川キャンピングインシンポジウム	○	—	—	150
8	神奈川	国道412号バイパス小鮎川・荻野川河川敷	10月10日	厚木市、厚木市環境保全指導員協議会	○	—	—	93
9	神奈川	相模川座架依橋上下流2km	10月10日	ガールスカウト座間43団	○	—	—	20
10	神奈川	相模川神川橋下流	10月11日	寒川町	○	○	—	80
11	山梨	新名庄川お宮橋～白久保橋	10月11日	忍野村	○	○	—	40
12	山梨	朝日川旭小学校付近	10月17日	朝日川を愛する有志の会	○	○	—	26
13	神奈川	荻野川源流域	10月25日	厚木市荻野自然観察会	○	○	—	10
14	神奈川	相模川高田橋周辺ほか4カ所	11月1日	相模川を愛する会	○	○	○	1509
15	神奈川	相模川河口干潟	11月8日	相模川河口の自然を守る会、桂川・相模川流域ネットワーク	○	—	—	60
16	神奈川	相模川小倉橋周辺	11月22日	城山町小倉自治会	○	○	—	100
17	神奈川	相模川神川橋下流	11月22日	回帰マス連絡会	○	—	—	40
18	神奈川	相模川上郷グラウンド周辺	11月22日	明るい社会運動「さつきの会」	○	—	—	94
19	神奈川	相模川朝霧河畔緑地河川敷	11月29日	須賀公民館	○	○	—	110
20	神奈川	相模川新戸スポーツ広場周辺	12月18日	相模原市立新磯小学校	○	—	—	339
21	山梨	明見湖	12月19日	カーカネットの会	○	—	—	30

※ このほかに、山梨で3カ所（桂川城南橋下、桂川大池橋～富士見橋、菅野川下流）、神奈川で1カ所（相模川高田橋他）計画がありましたが、雨天により中止となりました。

## 環境保全行動について 具体的に話し合っています

協議会では、流域の環境保全を図り、持続可能な発展を基調にした環境保全型社会を築くため、流域環境保全の行動計画である「アジェンダ21桂川・相模川」を推進しています。

このアジェンダを着実に推進していくため、幹事会に専門部会を設置して、各主体（市民、事業者、行政）がとるべき具体的な行動などについての検討を行っています。これまでに4回（1999年1月まで）の専門部会を開催しました。

### [専門部会の性格など]

第1回専門部会（1998年9月開催）では、専門部会の進め方などについて、次のような事項が合意、確認されました。（主な事項のみを列記します）

- ① 会員であればだれでも参加できる。
- ② 情報を共有し、共通の認識に立った上で議論を進める。
- ③ 基本理念のほか、水質・水量、ごみ対策などこれまでアジェンダの項目として取り上げられた事項（テーマ）について議論する。
- ④ 十分な議論を行うため、優先順位をつけて議論する。
- ⑤ 専門部会には専門家の出席をお願いする。
- ⑥ 専門部会の決定事項は、総会に諮り「アジェンダ21桂川・相模川」に盛り込む。

### [専門部会の運営]

専門部会の運営は、専門部会担当幹事が行っています。担当幹事は、専門部会を開催するにあたり、議題の選定や議論の進め方などについて事前に打合わせを行い、また、専門部会終了後には、討議結果の整理などを行っています。

### [専門部会での検討状況]

専門部会の議論を円滑に進めるためには、各参加者が流域の現状を理解し、共通の認識を持った上で話し合うことが重要です。このため、第1回、2回部会（1998年10月開催）は、水質・水量の現状などに関する勉強会という位置付けで開催しま

した。建設省京浜工事事務所や山梨・神奈川両県の関係課から、水質・水量の現況などについての説明が行われました。

第3回の部会（1998年11月開催）は、水質保全について具体的な議論を行いました。ここでは、市民から提案のあった①汚濁の発生源における対策②処理施設での対策③川の自浄作用による汚濁の低減などの視点で協議が進められました。

第4回の部会（1999年1月開催）は、廃棄物をテーマに開催しました。このときも前段で勉強会を行いました。

### [今後の予定など]

専門部会には、毎回、30名程度の方が参加しています。それぞれ立場が違う三者（市民、事業者、行政）が同じテーブルに着き議論を行うわけですから、意見や主張が違うことも様々な場面で見受けられます。

しかし、そのような状況でも、それぞれの立場を尊重し合いながら議論を進めています。一定のルールに則った話し合いができるのは、これまでの議論の積み重ねの成果ではないかと考えます。

今後は、これまでの専門部会での検討結果を踏まえ、各主体別部会から具体的な提案や意見などを出していただき、アジェンダの具体的な行動や基本理念として作り上げていく予定です。

専門部会では、これからも多くのテーマについて話し合っていきます。できるだけ多くの参加者の意見をアジェンダに反映させていただきたいと考えていますので、ぜひ皆さまご参加ください。



⑥ 2時間で集められたゴミの山（11月8日河口干瀬）

## 遅れ馳せながら、 私、頑張ります

大西知子

桂川・相模川の水源、山中湖は冬の今、きっと一年中で一番美しいでしょう。湖上にマガモ、ヨシガモ、ハクチョウ達をおよがせながら豊かにゆったりと呼吸をしています。林にはシジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ達がにぎやかに遊びます。夜ともなれば零下8、9度、ひっそりと凍りついているようでも、自然を取り戻す輝いた季節です。

夏になれば平均気温は22度程でしのぎやすく、涼を求める人々やテニス、水上スキー、ウインドサーフィンなどを楽しむ人々で大賑わいとなります。観光立村山中湖の喧噪の日々です。短い夏ではありますが、バカンスの後の大量のゴミと大量の生活排水が、小さな湖にダメージを与え続けてきたと思われるのです。

昭和30年頃の山中湖の透明度は7mもあり、美しいマリモもたくさん発見されたそうです。しかし、その頃からの観光開発の勢いに環境の悪化も激しくなりました。

美しい自然をそのままにと提唱する人達により、古くは昭和43年に「山中湖会」が発足しました。昭和60年頃には、美しい湖を取り戻そうと「山中湖ほたる愛護会」もでき、続いて「山中湖を愛する会」。人々の自然を大切にする思いが、長い間育まれているのですが…。いなくなった「ほたる」を育て、すっかり少なくなってしまった「マリモ」を守り、ヨシを植え、釣り針を拾う。そういう活動が長く続いているのですが…。

私は、生協運動を通して環境にやさしい生活を、持続可能な社会をと、私にできることから出発点に、学び、行動し、多くの仲間を作り

たいと行動しています。

流域協議会に参加していくうち、改めて自分の住む地域を見つめることになりました。山中湖に住む責任というものを考えるようになりました。

ずっと長く山中湖を愛してきた人達のこと、水のこと、村民のほとんどすべてが携わる観光業のこと、四季折々の森や動物や野鳥のこと、知りたいと本を読み、人を訪ねて村を歩き、思ったことは「私は私の住むこの土地から何も学んでいなかった」ということでした。とても情けなく悲しいことでした。

遅れ馳せながら、私ももっと学んでいこう。考えてみよう、想像しよう。山中湖の堰を越え流れる水になって113kmを旅する、めぐりめぐって帰ってくる水になって考えよう。頭と心を働かせる流域人になろう。

蛇足

・〇月〇日の市民部会で初めて「山中湖から来ました」と言ったら、みなさんのハッとする視線が…（気のせいですが）ホーと息の音が…（気のせいですが）聞こえました。

・山中湖村の下水道の利用率は62%、私の想像していた数値よりかなり高く、ホッとしました（皆さんの気持ちは、ともかく）

・かれこれ、20年来工事中、まだまだ7年（予定）かかります。膨大な年月と膨大な費用もまだまだかかります。ん～

・膨大な下水管の行く先は、延々と隣の町の下水処理施設まで続きます。ん～？

・マリモは直径が5cmくらいの大きさになるのに100年かかります。緑でまるくて毛糸玉のよう、しっとりやわらかくとてもかわいい、とても美しい。ホー

（生活協同組合コープやまなし）

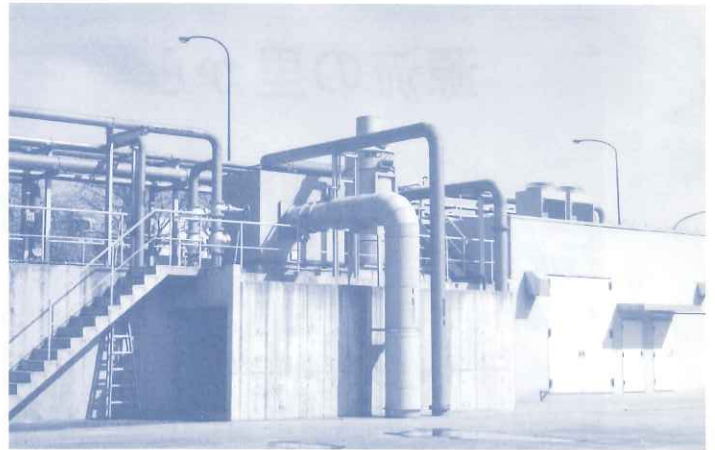
## コカ・コーラの 大切なものは水

布 川 明

コカ・コーラの原料水は、何を使っているのでしょうか？当社の海老名工場で製造しているコカ・コーラの水は、水道水を原料としており、水源は相模川の水です。この水道水を処理してコカ・コーラに合った水につくり上げています。そして、排出する水は、工場で処理をして、さらに公共下水道処理して、相模湾に戻しています。

当社は、企業理念として「地域社会を大切にし、共に歩んでいきます」そして「潤いある豊かな地域社会の実現に貢献していきます」をあげ、行動しています。

工場では環境との調和を目指し、大気への配慮として、昨年、燃料をよりクリーンな天然ガスに切り替えました。また、工場で排出するごみは、現在、約99%をリサイクルしていますが、さらに100%を目指しています。工場で不用となったアルミ缶、ガラスびんは再びアルミ缶、ガラスびんに、スチール缶は製鉄原料等に、そして、PETボトルはユニホーム等にと再生されていきます。原材料のコーヒーやお茶のかすは、有機肥料に生



⑦ 環境に配慮した排水処理施設

まれ変わって自然に戻ります。原材料を包んだ段ボールは再び段ボールに生まれ変わります。

私達は、地域社会と共生する企業人であると共に、また、多くの方が、相模川流域に住んでいる市民でもあります。これからも、企業としては、限られた水資源は、より節約し、使った水は、きれいな水にして、川に戻していかなければなりません。そして、支流を含めた相模川全流域に係わる一人ひとりも、いまできる「相模川によいこと」とは何かを考え、行動して、皆で未来に向けて、清く豊かに流れる、自然いっぱいの相模川をつくりあげていかなければと思います。

(富士コカ・コーラボトリング (株))

製造本部 品質保証室)



〈上下流交流事業〉

### みんなで植林を！

＝ 5月16日 (日) 都留市で実施予定＝

桂川・相模川の水環境を守るためには、川だけでなく、その流域にある森や山を守っていくことが大切です。山に木を植えたり、森のたたずまいを観察することを通して、流域の自然にふれていただき、あわせて上下流の人々の交流の輪を広げることが目的に、桂川・相模川流域協議会ではことしも、植林作業の体験イベントを実施することに

なりました。

今年の作業は、第52回全国植樹祭に合わせて山梨県が実施する21万本植樹運動と連携して行うもので、山林2ヘクタールに、ヒノキの苗木4千本を植える計画です。これは21世紀の森づくりのモデルになるような、公益的機能の高い複層林（樹齢や樹種の異なる木で構成される森林）をつくりあげようとする試みです。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

実施予定日 平成5月16日 (日)

場 所 山梨県都留市大幡地内



## 伝説 龍宮淵 (りゅうぐうぶち)

上野原の松留・<sup>ししゅうじ</sup>悉聖寺の南面を桂川が迂回して流れている。そのあたりの名勝「杵岩」の近くに、底知れぬ「龍宮淵」と呼ばれる深い淵があった。

昔、この部落に住む飯島某という百姓がある日、切り立った龍宮淵の上で木を切っていた。ふとしたはずみで、斧をこの淵に落としてしまった。大事にしていた斧だったので、拾い上げようと、自分もあわてて淵へ飛び込んだ。深い淵の中をどこまでも潜っていくと、突然、まばゆいばかりに美しい御殿の前に出た。

あまりの美しさにうっとりとして、さまよいこんでいくと、思わずわが目を疑うほど美しい女性が、せっせと機を織っていた。この乙女から夢のような歓待を受け、彼女と遊んでいるうちに、月日があつというまに過ぎてしまった。

やがて、男は家が恋しくなり、乙女に別れのあいさつをすると、彼女は名残を惜しみながら、形見の品に「宝珠の玉」をくれた。「この玉を持っていれば、なんでもほしいものが得られる。欲しいものの名を紙に書いて、淵に投げ入れればよい。しかし、この玉をだれにも見せてはいけない」と男に教えた。

これをもって男は淵から上がり、家に帰ってみると、何と自分が行方不明になって3年も過ぎていたのだ。ちょうど3年忌の法事の最中に男が戻ってきたので家人も親類縁者も驚き、亡霊ではないかと疑ったが、男から龍宮へいったという話を聞いて「まあ、不思議な事があればあるものだ」と首をひねったが、ともかく戻ってきたてよかったと喜び合った。

家に落ち着いた男は、乙女に教えられたとおり、ほしいもの名を紙に書いて淵に投げ込んで試してみると、紙はくるくる回って水底へ巻き込まれ、やがて頼んだ品物が出てきた。

それからというもの、ほしいものがある度にこの方法を用いては望みを果たしたので、男はたちまち富裕になった。不思議に思った女房は男に訳をたずねたが、男は言葉を濁して教えなかった。

そこで、夫の留守に夫の大切にしている秘密の風呂敷をあけて見ると、何の見栄えもしない石ころが入っていた。女房に見られて、宝珠の玉が秘密の力を失う

と、男はたちまち元の貧しい百姓に戻ってしまった。

この石は宝珠石と名付けられて、悉聖寺の観音堂に納められているといわれている。

### 《解説》

### 淵の伝説をはぐくむ豊かな流れ

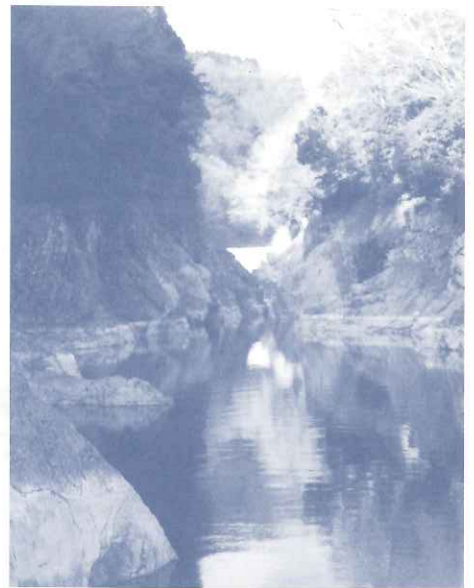
古来川には、淵にまつわる民話が多い。それはすべて、淵の神秘性をもたらした文化の産物である。

奥底のうかがい知れない不気味さ、水かさが増せば渦は激しさを加え、どんな泳ぎの達人も生きては返してくれない恐ろしさ…、人はそんな淵を畏れ敬って、近づこうとはしなかった。曰く、水神が住む、大蛇がいる、河童が棲む…などなどである。

「天然の漆が樽に何杯分もたまっているそうだ」のうわさがささやかれる。ときには淵に呑まれた肉親をあわれみ懐かしんで、「彼は竜宮の乙姫様に招かれたのだ…」と自らを納得させたことでもあろう。「金の斧、銀の斧」の説話など、淵や沼を舞台にした伝説の多さは洋の東西を問わない。

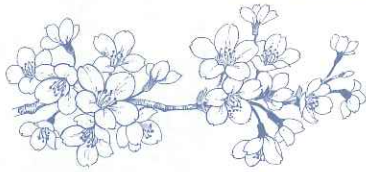
淵ができるためには①豊かな水量、②川底が堅い岩盤であること、③川の屈曲や落差の3つの要素が欠かせない。川のカーブで水は渦を巻き、石をヤスリに代えて川底の岩をうがち、穴を広げ、砂を外に流しだしながら掘り下げていく。流れが豊かである限りその営みはつづき、年月を経て、ときには数メートルの深さにも達する。

渦巻く流れは、中心部に強い陰圧が生じるため、引き込まれたら最期だ。腹筋が未発達な子供の水死体ではしばしば、肛門から腸が引きずり出されている。だから好奇心旺盛な子どもたちには、「カップにおしりを抜かれるから、近づいちゃだめヨ」が脅しの決め手になった。水利用のダムがつけられたり、発電や飲み水などの取水が進んで、流れがやせ細った結果、淵は石で埋まり、昔日の面影を失った。民話のふるさとが、その姿をよみがえらせる日はもはや、永久にこないのだろうか。



⑨ 桂川の淵 (山梨県上野原町)

あなたの参加をお待ちしています



## 桂川・北都留地域協議会の発足と今後の活動について

桂川・北都留地域協議会  
会長 鈴木 敏道

この会は桂川・相模川流域協議会の基本理念に沿って、循環型社会を創り上げるため、地域に密着した環境保全活動を実践し、今までの組織や枠組みを越えて、市民、事業者、行政がともに考え、行動する組織として昨年10月に発足したものです。地域住民が誰でも参加できるような「社会の仕組み」を作り上げるため、お互いの立場を理解しながら、活動の輪を未来につなげることを目指しています。

具体的な活動方針は、本年2月20日に開催した臨時総会で次のとおり決定し、活動を開始しております。

- ①木炭の製造と川の浄化
- ②生ゴミのリサイクルと堆肥化
- ③合併浄化槽の導入促進について（広域下水道の区域外）
- ④子どもたちが親しめる川づくり

ただし、③④については今後の流域協議会の専門部会での検討状況をふまえ、対応する予定です。

また、現在進められている下水道工事が完成し、供用開始されたときには、発生する汚泥のリサイクルも提言したいと考えております。

### 問い合わせ先

事務局長 河西 万文

電話 0554-22-6174 FAX 0554-22-5928

事務局 佐野 宏

(山梨県北都留地方振興事務所)

電話 0554-22-7801

## 流域協議会会員募集中

当会議は、桂川・相模川の流域の行動計画である「アジェンダ21桂川・相模川」を推進することにより、桂川・相模川の流域環境の保全を図り、持続可能な発展を基調にした環境保全型社会を築くことを目的としています。

この目的を達成するため、「アジェンダ21桂川・相模川」の推進や桂川・相模川の流域環境の保全を図るために各種事業を進めています。

今年度は、会員相互の交流と連帯を促進するための上下交流事業、環境保全のための行動への参加機会を提供するためのクリーンキャンペーンやシンポジウムを実施し、また「アジェンダ21桂川・相模川」を充実するために部会を設置して、専門的な検討なども行いました。

これからも、桂川・相模川の流域環境の保全について、多くの皆さんにご理解と参加をいただき、いっしょになって取り組んでいただきたいと思います。

## あ と が き

●市民ネットワーク・相模川の皆さんの労作「相模川不法投棄マップ」を拝見して、いろいろと考えさせられた。ゴミがそこにあるだけでゴミが集まるという「自己増殖」の側面、狭い国土だからこそ思い切った規制をしなければ…の側面、「モラルの低い人がある」ですまそうとする責任回避の側面…。一筋縄ではいかないなら、寄ってたかってやっつけるしかなさそうだ (A)

●現在の協議会活動と参加している各主体や団体の活動を幅広く知っていただき、会員だけでなく活動に興味を持たれる方々が環境についての実践活動に参加されることを期待しています。(G)

●この通信は何で“マジメ”なんだろう。しかも2つの県にまたがる流域で行動計画をつくる最先端の取り組み。近ごろ“マジメ”は流行らないそうだが、日本中にはやらせたい…。なんちゃって……マジメに思っている。(K)

●春の季語に山笑うとありますが、桂川が見え隠れする中央線の電車から見る山々の姿は緑の色合いが刻々と変わっていき、新芽の膨らみと共に本当に山が笑っているようです。

山があって川がある、移り変わる季節と共にその姿も様々に楽しませてくれます。この当たり前がいいですね。(N)

●定かではないが、桂川・相模川水系には、大小合わせて113もの支川があるらしい。さまざまな地域からさまざまな想いを寄せて太平洋に注ぐ水の流れを、きれいなまま次世代に引き継ぎたい。この会報がその水先案内人になればと思っています。(S)

あじえんだ113 Vol.1 No.2 (1999.3.29発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県環境局環境活動推進課 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL(055)223-1503 FAX(055)223-1507  
神奈川県環境部水質保全課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL(045)201-1111 内3786 FAX(045)212-8343

(この冊子は再生紙を使用しています)